

2018 年度 K I P P 対人関係精神分析セミナー

ご あ い さ つ

陽春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より KIPP 対人関係精神分析セミナーに温かなご支援とご理解をいただき、厚く御礼を申し上げます。今年度で本セミナーは 15 年目を迎えました。これまで本セミナーを支えてきてくださった参加者の皆さま、そして講師の先生方に感謝を申し上げます。今後とも皆様の変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、今年度のセミナーは、KIPP の講師陣に加え、NY から三名の先生をお招きし、「精神分析的心理療法の基礎」をテーマに 7 回シリーズで開催します。初回は、20ヶ国で翻訳され、教科書としても広く使われている『精神分析的心理療法』の著者である Nancy McWilliams 先生の講義です。McWilliams 先生が強調する、「マニュアル化されたテクニックではなく、個別性を重視してケースをフォーミュレートする視点」は、心理療法に必須のものといえます。改めて、1つ1つのケースについての考えを深めるきっかけにいただければと思います。基礎に立ち返ることで、初学者には精神分析的心理療法の土台固めを、経験者にはご自身の心理療法を再確認していただく機会になることと思います。アドバンスセミナーは、セラピストとクライアントの関係性が鍵となる、「メンタライゼーション」と「自己開示」という重要なテーマを取り上げます。各テーマに造詣の深い講師をお迎えし、参加者全員が思考を深められるような、多面的で立体的な議論を行いたいと考えております。本セミナーの特徴は、講師と参加者が対人関係精神的な相互交流を体験的に学び、実践力向上の機会を提供することです。是非この機会をご活用いただければ幸いです。

本セミナーでの学びが、複雑で、時に困難な日々の臨床現場に寄与することを願っております。どうか多くの皆様にご参加いただけますよう、心よりお待ち申し上げます。なお、②～⑨のセミナーは臨床心理士の研修ポイントとして申請する予定です。

一般社団法人 京都精神分析心理療法研究所

所長 横井公一

研修委員会：伊藤未青 岡村香織 森真治 山岡亜里紗

2018年度
KIPPセミナー「精神分析的な心理療法を基礎から丁寧に学ぶ」

日程	時間	講師	講義テーマ
① 2018年5月26日(土) 会場:キャンパスプラザ京都	第1講義	Nancy McWilliams	ケースフォーミュレーション再考
	第2講義	Michael Garrett	"Persecutory Objects"と精神病患者との関連

第1講義	休憩	第2講義	休憩	事例検討
14:00～15:30	15:30～15:45	15:45～17:15	17:15～17:30	17:30～19:30

日程	時間	講師	講義テーマ
② 2018年6月3日(日) 会場:キャンパスプラザ京都	講義	Sherry Bearnot	日常の臨床に精神分析的な理解をどう活かすか
	事例検討		
③ 2018年7月1日(日) 会場:YIC京都工科大学校	講義	川畑 直人	面接構造
	事例検討		
④ 2018年9月23日(日) 会場:未定	講義	鈴木 健一	初回面接の聴き方、訊き方、効かせ方
	事例検討		
⑤ 2018年11月11日(日) 会場:未定	講義	河崎 佳子	クライアントとのかかわり、関与、詳細な質問
	事例検討		
⑥ 2019年1月27日(日) 会場:未定	講義	鑪 幹八郎	防衛・抵抗とその介入
	事例検討		
⑦ 2019年2月17日(日) 会場:未定	講義	吾妻 壮	転移の扱い方の基本
	事例検討		

講義	昼食	事例検討
10:30～13:00	13:00～14:00	14:00～16:30

KIPPアドバンスセミナー

日程	時間	講師	講義テーマ
⑧ 2018年10月21日(日) 会場:未定	第1講義	崔 炯仁	メンタライゼーション
	第2講義	山本 雅美	
⑨ 2019年3月10日(日) 会場:未定	第1講義	杉原 保史	自己開示
	第2講義	岡野 憲一郎	

第1講義	昼食	第2講義	休憩	事例検討
10:30～12:00	12:00～13:00	13:00～14:30	14:30～14:40	14:40～16:40

※第1回、第2回は逐次通訳が入ります。

【講義内容】

第 1 回 2018 年 5 月 26 日(土)

「ケースフォーミュレーション再考」 ～個別性を概念化することの重要性について～

講師 Nancy McWilliams

現代において、精神病理学は疾病を個別に実体のあるものと捉え、投薬やマニュアル化された技法により治療可能であるとする診断パラダイムによって支配されており、ケースフォーミュレーションの技術は過去のものとして失われつつある。本講義では、個人を心理療法の仕事の中心に戻す。DSM や ICD-10 による診断カテゴリー分類より、治療の結果に確実に重要な心の組織化の構成要素について議論する。また、臨床家が治療のためにどのようにフォーミュレートするかを学ぶ素材となる、近著である Psychodynamic Diagnostic Manual (心理力動的診断マニュアル) の第 2 版 (PDM-2) についてもコメントをする予定である。

「メラニー・クラインの“迫害対象 (Persecutory Objects)” と 精神病圏患者との関連」～その治療的意義について～

講師 Michael Garrett

研究や臨床経験から、精神病の幅広い病因と結果が示されているにも関わらず、精神病は生物学的、または化学物質欠損に還元できるものとされ、心理療法を併用することなく、投薬と「管理」のみで治療できるとする考えが現在一般的である。しかし、精神病の症状には意味があり、話す治療（統合失調症の認知行動療法と精神分析的なアプローチを含めて）が役に立つ。本講義では、メラニー・クラインの精神病的苦しみへの理解の貢献について、その価値を探索し、統合失調症や他の精神病と診断されている患者との治療関係を持つセラピストの助けとなることを目的とする。

第 2 回 2018 年 6 月 3 日(日)

「日常の臨床に精神分析的な理解をどう活かすか」

講師 Sherry Katz-Bearnot

患者に対して十分な時間や頻度を取れないといった、最良とは言い難い治療状況において、精神分析的な心理療法家の持つ独自の訓練と理解の融合は、いかにしてより良いケアを提供しうるだろうか？治療の焦点をどこに当てるか、そして精神分析的な治療設定になっていない状況においても、精神分析的・心理力動的な知識をどのように活かすことができるのかについてのガイドラインを考える。例えば、患者に服薬意識を高めてもらう、CBT（認知行動療法）のホームワークをしてもらう、そしていつ、どのようにして家族を治療に参加してもらうかということを決めるのに、治療者の力動的な理解を活かすことができる。またいつ、どのような状況では治療抵抗の内容を直接取り上げずに回避すべきか、という判断にも力動的な理解を活用できると考える。

第 3 回 2018 年 7 月 1 日(日)

「面接構造」

講師 川畑 直人

精神分析的な心理療法の面接構造を組織論の観点から考えてみたいと思います。BART(境界、権威、役割、目的)という組織を分析する視点は、状況に応じて柔軟に面接構造を設定し、かつ構造の健全性を確保することに役立ちます。また、心理療法のプロセスで起こる転移という現象の理解も深まります。病院、学校、公的機関など様々な組織の中で、心理臨床を行う上でも役立てていただくと幸いです。

第 4 回 2018 年 9 月 23 日(日)

「初回面接の聴き方、訊き方、効かせ方」

講師 鈴木 健一

初めてクライアントと会う時に、私たちもクライアントも、意識的に、無意識的に不安や緊張を覚えます。そんな二人の出会いの場である初回面接で、私たちはどのように振る舞い、どのようなことを質問し、何を相手に伝えたらよいのでしょうか？私の実践を紹介しながら、初回面接のテーマに取り組んでみたいと思います。

★参考テキスト

・H.S. サリヴァン／中井久夫他訳 (1986) 『精神医学的面接』みすず書房

第 5 回 2018 年 11 月 11 日(日)

「クライアントとのかかわり、関与、詳細な質問」

講師 河崎 佳子

面接におけるクライアントとのかかわりのあり方について、複数の事例を紹介しながら具体的に語る。心の風景を探る関与とは何か、関係が息づくための詳細な質問とはどういうものかを伝え、前年度に引きつづき、「オープンであること」「話題にすること」の威力を共有したい。さらに、きこえない人々との臨床実践を取り上げて、本源的自己中心性に挑戦してクライアントを理解することの意義を、パラタクシスとシンタクシスの概念に結びつけて解説する。

★参考テキスト

・H.S. サリヴァン／中井久夫他訳 (1990) 『精神医学は対人関係論である』みすず書房

第 6 回 2019 年 1 月 27 日(日)

「防衛・抵抗とその介入」

講師 鑪 幹八郎

精神分析の実施は寝椅子と自由連想、そして解釈が 3 本柱であった。自由連想がスムーズに進まないクライアントに気づいて、抵抗と呼んだ。自由連想をしない、出来ない、避けたがるというのが、「抵抗」である。フロイトは『精神分析入門』（1939）の中の第 19 講でそのことを説明している。その講義の後半に「転移」を抵抗として捉えていことが述べられている。この考えは最近まで引き継がれてきた。メンninger は『精神分析技法論』の中で「抵抗の章」を設けて論じている。ここでは、自我心理学を背景に、自我の防衛と抵抗として捉えている。やがて、「アクティング・アウト」や「エナクトメント」も含めて、治療の抵抗というより、治療関係の力動の中での困難な問題として取り扱われるようになった。これは「治療抵抗」 treatment resistance として検討されている。最近、治療関係のヒア・アンド・ナウの関わりのも主題として扱われている。治療的な介入は抵抗の見方によって違っている。ここでは、これらの知見を背景に、対人関係精神分析の立場から、防衛や抵抗のワークスルーについて考えてみたい。

★参考テキスト

- ・Freud, S. (1917): Introductory Lectures of Psychoanalysis (1916-1917) / 新宮一成・高田珠樹・須藤訓任・道籙泰三訳 (2000) 精神分析入門講義第 19 講『フロイト全集 15』岩波書店
- ・Menninger, K. (1958): Theory of Psychoanalytic Technique. Basic Books, N.Y./ 小此木啓吾他訳(1969)『精神分析技法論』岩崎学術出版
- ・Sullivan, H. S. (1954): Psychiatric Interview./ 中井久夫他訳 (1986) 『精神医学的面接』みすず書房
- ・Singer, E. (1965): Key Concepts in Psychotherapy./ 鑪幹八郎・一丸藤太郎監訳 (1976) 『心理療法の鍵概念』誠信書房

第 7 回 2019 年 2 月 17(日)

「転移の扱い方の基本」

講師 吾妻 壮

精神分析・精神分析的セラピーにおいて、転移は特別な位置を与えられている。転移を解釈していくのか、それ以外の方法で扱うのか、早期から解釈していくのか、それとも転移が十分に展開してから解釈するのかなど、技法的には意見が分かれる。しかし、転移を扱うことこそがもっとも精神分析的な営みであるという考えは、学派を超えてほぼ共有されている。本講義では、転移の扱い方の基本を、学派間で共有されているところとそうではないところの両方に留意しつつ講じる。初学者を念頭に置き、基本的な内容となるように心掛けるつもりだが、発展的な内容も一部取り入れ、中堅以上のセラピストの参考にもなるような講義にしたいと考えている。

★参考テキスト

- ・G.O. ギャバード (2012) 『精神力動的な精神療法－基本テキスト』岩崎学術出版社

【講義内容(アドバンスセミナー)】

第 8 回 2018 年 10 月 21 日(日) 『メンタライゼーション』

「メンタライゼーションに基づく治療(MBT)

～外傷的育ちを生きてきた人の<心を見わたす心>を育てる～

講師 崔 炯仁

Fonagy P., Bateman A.らが境界性パーソナリティ障害 (BPD) の治療法として提唱したのが「メンタライゼーションに基づく治療 (Mentalization-based Treatment, MBT)」です。メンタライゼーションとは「自己・他者の行動を、心理状態 (欲求・感情・信念) に基づくものとして理解すること」を意味します。MBT は他の治療法との併用可能性など大きな広がりを持っており、対象も BPD だけでなく外傷的育ち (虐待や過度の支配など過酷な養育体験) の影響を受けた種々の精神疾患 (うつ病、解離性障害、嗜癖、摂食障害など) に治療の幅を広げることができます。今に焦点づけ、本人が治療者との間で<自己と他者の『心』を見わたす心>を育て、感情を調整する力を伸ばしていく MBT の基本技法について概略を紹介します。

★参考テキスト

- ・崔炯仁 (2016) 『メンタライゼーションでガイドする外傷的育ちの克服<心を見わたす心>と<自他境界の感覚>をはぐくむアプローチ』星和書店
- ・Bateman A. & Fonagy P., Psychotherapy for Borderline Personality Disorder: Mentalization-Based Treatment. Oxford University Press, New York, 2004. (狩野力八郎, 白波瀬丈一郎監訳 (2008) 『メンタライゼーションと境界パーソナリティ障害:MBT が拓く精神分析的精神療法の新たな展開』岩崎学術出版社)
- ・上地雄一郎 (2015) 『メンタライジング・アプローチ入門—愛着理論を生かす心理療法—』北大路書房

「メンタライゼーションと対人関係論」

講師 山本 雅美

「メンタライゼーション」とは、自分そして他者のこころの状態をありのままに認め、このような認識を自分の感情を適切にコントロールしたり、人と関係をうまく調整したりするために用いることができる能力のことである。愛着理論や乳児研究はこの能力の発達に母親 (世話役) と赤ん坊という早期の二者関係がかかわることを指摘する。これは精神分析理論 (例えばフェレンツイ、クライン、サリヴァン、ウィニコットなど) が提唱してきたところでもある。本講義は乳児研究を踏まえた発達論と精神分析理論をつなぐこの古くて新しい概念がどのように臨床実践に役立つか、事例を用いて検討する。対人関係論との関連についても述べる予定である。

★参考テキスト

- ・上地雄一郎 (2015) 『メンタライジング・アプローチ入門—愛着理論を生かす心理療法—』北大路書房

第 9 回 2019 年 3 月 10 日(日) 『自己開示』

「自己開示の必然性:トウー・パーソンの視点から」

講師 杉原 保史

心理療法のプロセスを、単にクライアントの中から発展してくるものとしてではなく、クライアントとセラピストとの円環的な相互作用から生み出されるものとして捉えるトウー・パーソンの視点を、単なる理論的な概念に留めず、実践されるべきものとして捉えるなら、セラピストの自己開示は禁止されるべきものではないばかりか、許容されるべきものでさえなく、必然的なものと見なされると思います。ポール・ワクテルの循環的心理力動論の考え方と、ダイアナ・フォーシャの AEDP (加速化体験力動療法) の考え方を紹介しつつ、自己開示について実践的に考えてみたいと思います。

★参考テキスト

- ・Wachtel, P. L. (2011) Therapeutic Communication, 2nd Edition: Knowing What to Say When. The Guilford Press. (杉原保史訳 (2014) 心理療法家の言葉の技術:治療的コミュニケーションをひらく 金剛出版)
- ・Fosha, D. (2000) The transforming power of affect: A model for accelerated change. (岩壁茂他監訳 (2017) 人を育む愛着と感情の力: AEDP による感情変容の理論と実践 福村出版)

「自己開示の現代的意義」

講師 岡野 憲一郎

「自己開示」は精神分析家たちにとっては古くて新しい問題だ。フロイトの「匿名性の原則」以来、いまだに分析家たちにとっては論争の種である。現代的な「自己開示」の議論は、治療者がいかに自己を用い、提供するかというテーマと結びつきつつ進化を遂げている。当日は「自己開示」をめぐる歴史に触れつつ、この概念の現代的な意義について論じたい。

★参考テキスト

- ・岡野憲一郎編著 (2016) 『臨床場面での自己開示と倫理—関係精神分析の展開』岩崎学術出版社

講師紹介

吾妻 壮 Agatsuma, Soh

精神科医・精神分析家・日本精神分析協会正会員・国際精神分析協会正会員・米国精神分析協会正会員

所属：神戸女学院大学人間科学部

著書：『精神分析における関係性理論』（誠信書房）、『臨床場面での自己開示と倫理一係精神分析の展開』共著、
『関係精神分析入門』共著、(岩崎学術出版社)

訳書：P. M. ブロンバーグ『関係するところ』（誠信書房）、J.リア『開かれた心』（里文社）、

B. ビービー他『乳児研究から大人の精神療法へー間主観性さまざま』（岩崎学術出版社）

崔 炯仁 Choi, Hyungin

精神科医・医学博士

所属：いわくら病院

著書：『メンタライゼーションでガイドする外傷的育ちの克服<心を見わたす心>と<自我境界の感覚>をはぐくむ
アプローチ』（星和書店）など

Garrett, Michael, MD

American Psychiatric Association—APA, Life Member

American Psychoanalytic Association—ApsaA, Member

Institute of Cognitive Therapy for Psychosis (ICTP), Co-Founder

所属：The State University of NY, Downstate Medical Center.

著書：『Hallucinations: A Practical Guide to Treatment.』(Oxford)

論文：Garrett, M. Cognitive Behavioral Therapy for Psychosis in a Psychoanalytic Frame. (2012) *the American Psychoanalyst*. 46 (1). Garrett, M. and Singh, D. The Bayesian equation and psychosis. *Brain*. June (2012) etc.

Katz-Bearnot, Sherry, MD

American Academy of Psychoanalysis and Dynamic Psychiatry, Past-President

American Psychiatric Association – APA, Distinguished Life Fellow

American Psychoanalytic Association – ApsaA, Certified Member

所属：Columbia University College of Physicians and Surgeons, NYC

論文：The medical education of generation Rx. Katz-Bearnot, S.; *J Am Acad Psychoanal Dyn Psychiatry*. (2007).

The family doctor: psychodynamic psychotherapy in tightly knit communities. Katz-Bearnot, S.; *J Am Acad Psychoanal Dyn Psychiatry*. (2011) etc.

川畑 直人 Kawabata, Naoto

臨床心理士・教育学博士・WAWI 精神分析家・WAWI 児童青年心理療法家

所属：京都文教大学／一般社団法人京都精神分析心理療法研究所／(有) ケーアイピーピー

著書：『臨床心理学』共著 (培風館)

訳書：S. ビューチュラー『精神分析臨床を生きる』監訳、F. パイン『欲動・自我・対象・自己』監訳 (創元社)

河崎 佳子 Kawasaki, Yoshiko

臨床心理士・教育学博士

所属：神戸大学人間発達環境学研究科

著書：『きこえない子の心・ことば・家族』（明石書店）『聴覚障害者の心理臨床2』共編著（日本評論社）

訳書：F. パイン『発達理論と臨床過程』共訳（岩崎学術出版社）、『欲動・自我・対象・自己』共訳（創元社）

McWilliams, Nancy, Ph.D., ABPP

NPAP上級分析家・NJ州精神分析/心理療法研究所上級分析家

American Psychoanalytic Association–ApsaA, Honorary Member

所属：Graduate School of Applied & Professional Psychology, Rutgers University

著書：『パーソナリティ障害の診断と治療』, 『ケースの見方・考え方』(創元社)

岡野 憲一郎 Okano, Kenichiro

精神科医・臨床心理士

所属：京都大学大学院

著書：『外傷性精神障害』, 『解離性障害』, 『治療的柔構造』, 『脳から見た心』(いずれも岩崎学術出版社)他多数

杉原 保史 Sugihara, Yasushi

臨床心理士・教育学博士

所属：京都大学 学生総合支援センター

著書：『統合的アプローチによる心理援助』(金剛出版), 『技芸(アート)としてのカウンセリング入門』, 『プロカウンセラーの共感の技術』(創元社), 『キャリアコンサルタントのためのカウンセリング入門』, 『心理カウンセラーと考えるハラスメントの予防と相談』(北大路書房)

訳書：P. ワクテル『心理療法の統合を求めて』, 『心理療法家の言葉の技術』, J. フランク& J. フランク『説得と治療』, 『ポール・ワクテルの心理療法講義』(金剛出版)

鈴木 健一 Suzuki, Kenichi

臨床心理士・心理学博士・WAWI 精神分析家

所属：名古屋大学学生相談総合センター

訳書：S. ビューチュラー『精神分析臨床を生きる—対人関係学派からみた価値の問題—』(創元社)

M. ブレッシュナー『夢のフロンティア—夢・思考・言語の二元論を超えて—』(ナカニシヤ出版)

鑪 幹八郎 Tatara, Mikihachiro

臨床心理士・教育学博士・WAWI 精神分析家

所属：京都文教大学・広島大学名誉教授／

一般財団法人広島カウンセリング・スクール理事長／ふたばの里精神分析研究室

著書：著作集『第1巻 アイデンティティとライフサイクル論』, 『第2巻 精神分析と心理臨床』, 『第3巻 心理臨床と倫理・スーパーヴィジョン』, 『第4巻 映像・イメージと心理療法』(ナカニシヤ出版) 他

訳書：H.S. サリヴァン『精神医学は対人関係論である』共訳(みすず書房) 他多数

山本 雅美 Yamamoto, Masami

臨床心理士・NY州精神分析家・WAWI 精神分析家・WAWI 児童青年心理療法家

所属：武蔵境心理相談室

会場案内

キャンパスプラザ京都 (JR・近鉄・地下鉄各線京都駅より徒歩約5分)

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ル 【Tel】 075-353-9111

YIC 京都工科大学校 (JR・近鉄・地下鉄各線京都駅より徒歩約5分)

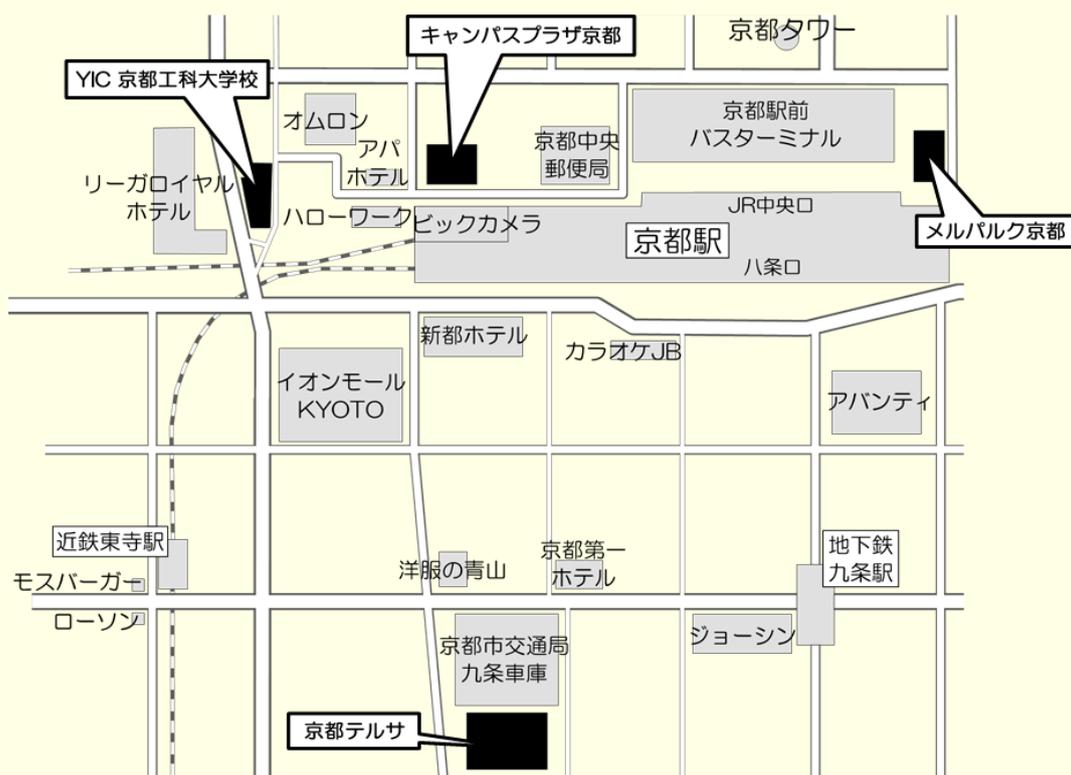
〒600-8236 京都府京都市下京区西油小路町 27 【Tel】 075-371-4040

京都テルサ (JR 京都駅八条口西口より南へ徒歩約15分、近鉄東寺駅より東へ徒歩約5分)

〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町 70 番地 京都府民総合交流プラザ内 【Tel】 075-692-3402

メルパルク京都 (JR 京都駅烏丸中央口より東へ徒歩約1分)

〒600-8216 京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町 676 番 13 【Tel】 075-352-7444



※セミナーは、「キャンパスプラザ京都」、「YIC 京都工科大学校」など京都駅近辺の会場で行います。

※未定となっている会場は、決まり次第ホームページ <https://www.kippkyoto.org/>に掲載します。申込みをされた方には、郵送、e-mail、Fax 等で通知いたします。

＜ 受講申込要領 ＞

対 象 臨床心理士、精神科医、その他の医療・教育・福祉等で心理臨床に関わっている方。
または、それに関わる学生、大学院生。事例の守秘を守る方。

申込方法 ① e-mail
同封の「申込用紙」を e-mail に添付、または必要事項を e-mail にご記載の上、お申
送ください（必ず PC の e-mail アドレスをご記入ください）。受付後、振込先を
e-mail にてお知らせするとともに、申込受付票を PDF にてお送りいたします。

② Fax・郵送

同封の「申込用紙」に必要事項をご記入の上、お申送ください。受付後、振込用紙と
申込受付票をお送り致します。

申込期限 シリーズ申込 第 1 回開始日の 2 週間前まで
セッションごとの申込 各セミナーの 2 週間前まで
※定員に達した場合は申込期限より早めに締め切りとさせていただきます。

申込・問合わせ 〒612-8083 京都市伏見区京町 4 丁目 156 番地 1 桃山ビル 3F
KIPP 桃山心理オフィス内 一般社団法人 京都精神分析心理療法研究所研修委員会
(Tel & Fax) : 075-623-0823 (e-mail) : info@kippsyoto.org
(HP) : <https://www.kippsyoto.org/>

受講料

	7回シリーズ(①～⑦)	9回シリーズ(①～⑨)	セッションごと	
			①のみ	②～⑨
一般	44,000 円	56,000 円	9,000 円	各 7,000 円
学生・修士卒業後 5 年以内	30,000 円(※)	38,000 円(※)	7,000 円	各 5,000 円

※学生・修士卒業後 5 年以内の方はシリーズ申込のみ分割納入が可能です。詳細は事務局まで。

払込期限 振込用紙・振込先を受取り後、セミナー当日 1 週間前までにお振込ください。
● 初回受講時には、申込受付票と郵便振替払込受領証（またはプリントアウトした
もの）をお持ちください。引き換えに名札と研修証明書をお渡しします。
● 一度納入いただきました受講料は原則として返却致しかねますので、あらかじめ
ご了承ください。

会場受付開始時間 講義開始時間の 15 分前より開始いたします。

* 本案内は、過去のセミナー参加者名簿、心理臨床学会名簿、臨床心理士会名簿の情報をもとにお送りし
ています。以後、案内送付を希望されない方は、恐れ入りますが Fax、e-mail 等でご一報下さい。

* 案内の送付をご希望の方は事務局にご連絡いただければ案内送付リストに加えさせていただきます。

